

岩手宮城内陸地震・実効雨量（速報 第2版）

茨城大学工学部都市システム工学科

防災・環境地盤工学研究室

東ヶ崎徹、布川直矢、小川寛久

気象庁の過去のデータ(2008/5/15~2008/6/14)より半減期72時間実効雨量をまとめたものを示す。今回は地震発生時の6/14の時間雨量が本日(6/15)アップされていたので改めて算出した。降雨データは土砂災害の発生した付近の観測点である岩手県まつるべ、一関、福島県小名浜、宮城県駒の湯の4箇所のものを用いてそれぞれの実効雨量を算出した。

4箇所中最も実効雨量が多かった宮城県駒の湯観測所で13.6mm(6/14 0:00)であった(図1)。この地域では6/5にまとまった降雨があり6/7には実効雨量が70mm付近まであったが地震発生まで無降雨期間が続いたため13.6mmまで減少していることが分かる。

また、新たに各観測所の位置を表示した(図2、図3)。

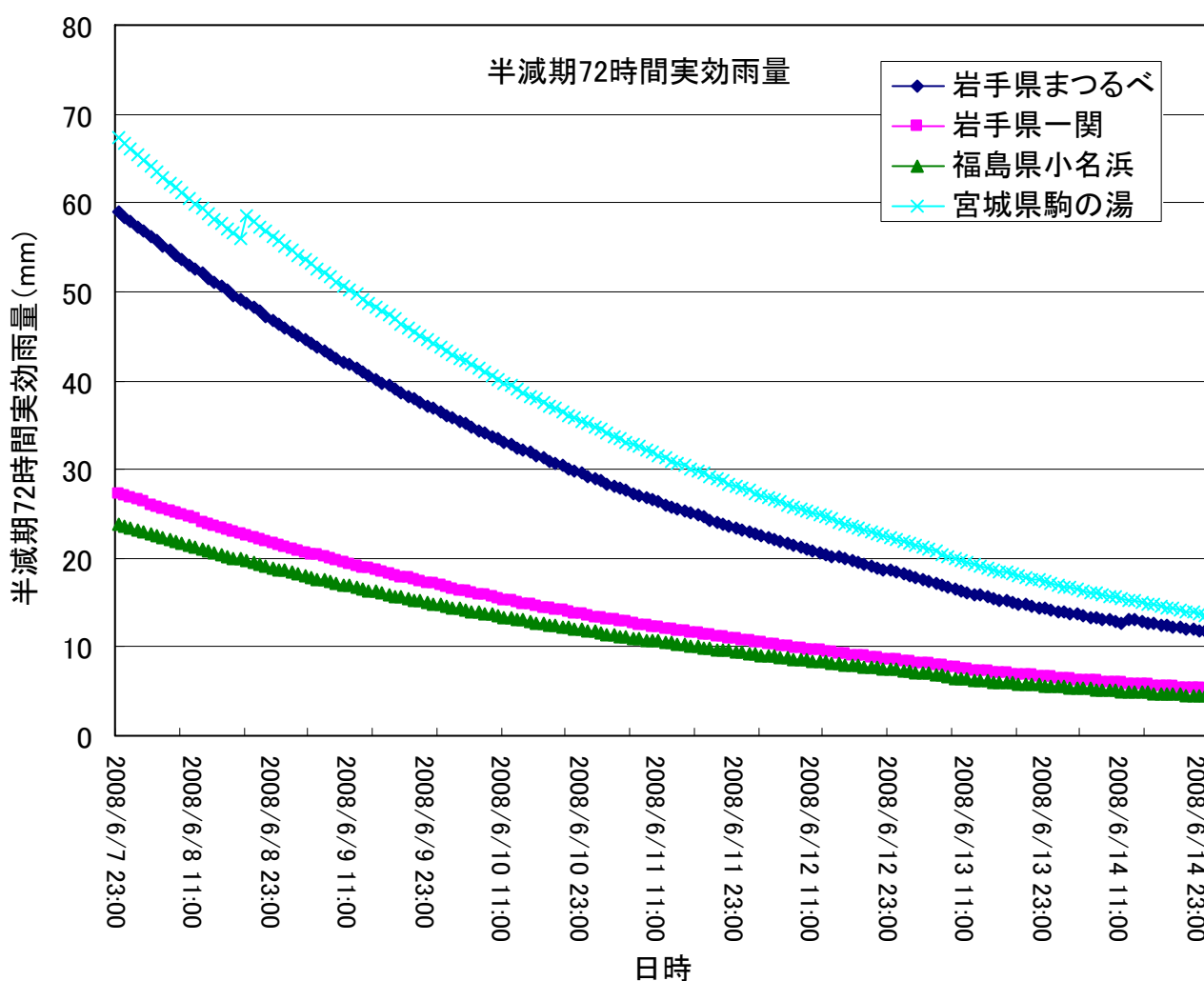


図1 半減期72時間実効雨量



図2 観測所の位置 (まつべ、駒の湯、一関)

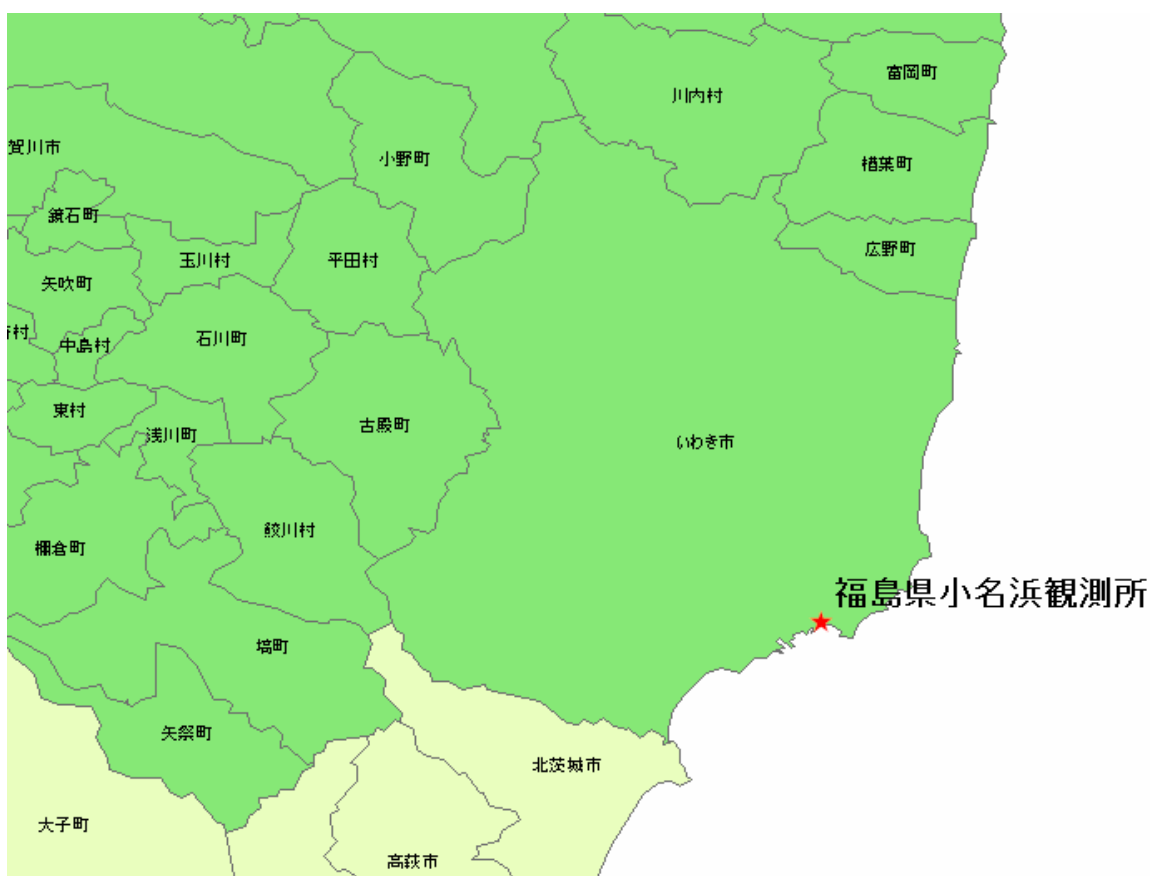


図3 観測所の位置 (小名浜)